

市の強み 魅力

- ・造船業のサプライチェーンが揃っている
- ・国内上位の養殖産業がある
- ・国内で有力な海藻メーカーがある（ひじき）
- ・うなぎメーカーの本社がある（完全養殖確立）
- ・50年サイクルの森林（杉）がある
- ・第一次産業もマリンレモン等新しいブランドづくりで伸びている
- ・新しい加工食品開発
- ・佐伯湾は地形、気象的に船の試験に適している
- ・外国船が入港でき通関できる港がある
- ・深い港がある（県岸）
- ・田舎の割には大手企業が多い
- ・海があるため、物を運ぶ手段が多い
- ・町の規模以上の歓楽街（新町通り）が存在している
- ・スモールビジネス。個人商店が複数存在できている
- ・飲食店が多い
- ・小さいけど観光できるところが多い
- ・アウトドアがいろいろできる（キャンプ、つり等）
- ・水がきれいなので食材が美味しい
- ・土地がある
- ・災害に強い
- ・温暖な気候で農産物がよく育つ
- ・ドライブしがいのある道
- ・専門スキルを身に付けたい若者へのアピール
- ・元気なシニアが多い
- ・人が良い（おせっかいの気持ち）
- ・負けん気が強い
- ・人口が少ない分、こども同士の仲がいい
- ・関係人口が多い
- ・産業界で著名人がいる
- ・佐伯硬式野球団がある

など

「強み」を活かした取り組み

- ・新しい加工食品開発
- ・佐伯湾の地形を生かして佐伯を試験場として整える
- ・フェリーの家具をブランド化←佐伯の木で
- ・港湾エリアの開発とさらなる造船業の誘致
- ・海上流通網の復活
- ・佐伯の自然を活かしたスポーツ合宿。合宿施設の建設（木材を使った）
- ・設備投資のしやすい環境をつくる
- ・新町、うまいもんエリアのリブランディング
- ・さらなる創業支援。継続年に応じた多様な支援
- ・地域振興課のサービスメニューの再考
- ・新たな観光スポットをつくる
- ・外国人が佐伯市にお金を落とす仕組みづくり
- ・人が人を育てる力をつける
- ・専門学校をつくる
- ・観光地として整備する
- ・情報発信を行う
- ・自然（海、山、川）を活かした宿泊観光の集客→昼間の遊び場

など

8年後の将来像

- ・子どもが生まれたら1人当たり500万円もらえる！！
- ・自然やおいしい食を求める観光客の増加
- ・佐伯市民の大半が外国人となる
- ・海底から大空まで生かした楽しく暮らせる強い町
- ・企業同士が連携している
- ・若者が帰ってきたくなる町になっている
- ・佐伯の美味しいものを食べに世界中から観光客が来る
- ・外国人人材の定着
- ・外国人も日本人も安心して暮らせる町
- ・日本一子育てしやすい町になっている
- ・次世代海洋モビリティの実証海域
- ・交通手段が増え、関係人口増
- ・幸せな生活をしている
- ・made in 佐伯のお土産を市外の人が知り、収入、税収アップ
- ・市外で落としているお金を佐伯で使えるようになる
- ・基幹産業が3～5種増加。九州一の税収を誇る
- ・市民が負担少なく、強い佐伯になっている
- ・佐伯市だけですべて完結できる。真のコンパクトシティ化
- ・2034年人口。予定49,830人。実績80,000人
- ・若い人たちが地元で働くことができる（働きたい）人口減少ストップ
- ・子育て世代の移住希望者が増え、小中高ともに定員以上の児童生徒
- ・新しい産業を後押ししてくれる佐伯市
- ・各小中学校が最低でも2クラス。多いクラスで5クラス！
- ・働く場所が増え、子供が佐伯市に残るという選択をする。人口増加。
- ・老朽化するとインフラを維持し続けることのできる財源が確保され続けている
- ・佐伯の“名店”がいまだに存続している
- ・世界最先端の設備に更新された製造業、水産業各社
- ・クリエイティブ人材が多数定住
- ・市外の人も住みたくなる佐伯。仕事&生活
- ・新町のネオンはいまだに消えず増え続けている
- ・2026年に成人を迎えた人材が20～30%ほど佐伯にUターン
- ・多くの若い人が行きかうまち
- ・車のいないまち（公共交通機関）
- ・一次産業30%、二次地場産業40%、企業誘致30%
- ・挑戦者が多くなる
- ・「佐伯市」と言ったら「〇〇」というモノがある
- ・子どもの声がたくさん聞こえるまち
- ・経済が豊かでみんなが笑っている
- ・観光でにぎやかな街
- ・足腰痛くても笑顔で長生きする人々
- ・仕事が楽しくて幸せすぎる佐伯
- ・新町がにぎやかでごった返している
- ・専門学校、大学がある
- ・良いニュースで佐伯がTVに
- ・スポーツ振興が進んで人口増加
- ・若者が増え少子化が解決
- ・後継者争いが激化

市の弱み 課題

- ・若者の市外流出
- ・後継者不足
- ・一次産業を認めてほしい
- ・現場の仕事は人間が少ない
- ・外国人の受け入れをもっとサポートしていいのでは
- ・企業間の連携不足
- ・個人の事業を大事にしてほしい。
- ・設備の老朽化
- ・クリエイティブがない
- ・大卒の人の働き場が少ない
- ・働く場所が限定的
- ・取引先がどんどん減っていく（廃業等で）
- ・高松などを比較すると港湾エリアの活用が未開拓
- ・商圏が狭い
- ・人口減少。佐伯で働く人減少
- ・医療福祉に雇用が集中
- ・業種の窓口が分からず、どこに問い合わせればいいか分からない
- ・宿泊できる床数が少ない
- ・夜まで空いてる飲食店が少ない（お酒がない店、定食等）
- ・生活できるだけの仕事場が少ない
- ・何をするにも反対派が多い
- ・働きたい仕事がない
- ・若い人や女性の働く仕事が少ない
- ・挑戦力
- ・AIに弱い
- ・情報の発信力弱い
- ・お金はどこに止まっているのか？
- ・給料がもうちょいほしい
- ・子どものコストがかかると佐伯にとどまるインセンティブがなくなる
- ・人員、人材不足

など

「弱み」を改善する取り組み

- ・佐伯に帰ってきたい理由を作る。子育て支援（佐伯独自のもの）
- ・外国人就労者の増加→受け入れ体制（市）
- ・通学コストを下げるための政策
- ・佐伯に住み続けるインセンティブを高める
- ・一定以上の正社員を雇用する企業を誘致する
- ・市のお土産用の箱などを市で取り扱ってもらいたい。
- ・何らかのアイデアを形にできる窓口があるといい
- ・女性が勤めやすい企業を誘致したり、起業支援（人口減少に歯止め）
- ・産業が発展できるように市の支援を拡充→市内で働く人の増加
- ・習い事の送迎等を市とタクシー会社が連携してサポート
- ・商工会議所や市に窓口創設
- ・未利用地の使用に対する公募取り扱い窓口
- ・新しいことをやってみる
- ・第一次に力を入れたら二次に力が入る
- ・大企業やモールがあったらいいのに
- ・スポーツを絡めた企業への就職の斡旋
- ・専門的な大学の誘致

など